

情報誌

ごあいさつ



発行
平成29年9月20日
須賀連合町会事務局
編集責任者 井上利夫
発行責任者 田中義記
須賀2丁目10-30
TEL:28-1997

須賀町 住民数 2,788人
8月現在 世帯数 1,274世帯

須賀連合町会長 田中義記

29年度から須賀連合町会長の担うことになりました。前任の谷口均会長は平成25年の法人格としての連合町会の立ち上げから以降4年間役員の方々とともに連合町会の礎を築いていただき感謝申し上げます。後任として微力ではございますが、役員の方々町内の皆様のご支援をいただき努めてまいりたいと思います。

現在取り組んでいる案件として、既に町内の皆様に回覧しています「神宮寺集会所の修理・改修」について趣意書によりご寄付のお願いをさせていただいております。地域の継承建物として幅広く利用されることを希みます。

年度中の完成を予定しています。富田林市では、平成29年度から「第3次地域福祉計画」がスタートします。内容は、福祉の参加型社会づくり・誰もがその人らしい生き方を実施できる相談・支援が必要と策定されています。隣近所や町会などでの声かけ見守り相談・助け合いの支援を持ちながら地域の特性を生かしつつ活動する。一例としては、半径100m以内の見守りを住民が行えば叶えられるものです。

今後 急加速する高齢化、認知症予防への取り組み。また、将来の担い手となる幼児の育成、現役世代のサポート等テーマは、いくつもありますが住民の皆様にてできる事から一つづつ実行していきたいと考えています。

☆須賀地車新調10周年記念イベント

地車保存会・祭礼運営委員会

- ①11月5日(日)「だんじりIN大阪城パレード」参加
須賀地域の伝統保存行事の一つ秋祭りの“だんじり”が新調してから10年を迎えます。記念行事として「だんじりIN大阪城パレード」に初参加します。詳細は回覧にて案内させていただきます。奮っての御参加をお待ちしています。
- ②「須賀地車10周年記念誌」を発刊します。
平成30年中発行を目的に準備に取り掛かっています。記念誌編集にあたり、昔の祭りに関する写真を集めています。また、この機会に昔だんじりにまつわる思い出の話がございましたら写真同様地車保存会迄お寄せください。

- ③「解体・締め直し」を致します。
だんじりは、およそ10年周期で「解体・締め直し」という、車に例えれば「車検」のようなものが発生し500万円程度の経費が必要になります。(平成29年中に予定)そこで、誠に恐縮ではございますが、ご祝儀の増額及び新規のお願いを申し上げます。増額につきましては、現行の5割増を目標としています。(現行約200万円から300万円)地域によっては割り当てをしているところもあるようですが須賀町においては祭礼委員の祝儀担当が、ご寄付のお願いにお伺いさせていただくことも考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

盆踊り開催 [7月30日(日) 尼池児童遊園]

主催:須賀青年会・須賀祭礼運営委員会

「とっぴー」が突然、盆踊り会場に出現。会場にいた子ども達に取り囲まれ、一躍人気者になりました。

今年の盆踊りは、初めての試みとして「子どもタイム」が企画されました。まずは「ジャンケン大会」が始まり、壇上からゲー・チョコ・パーの大きなうちわに子ども達は真剣勝負。回を重ねて残った4人は壇上に上がり、上位の子ども達は景

品をゲットして大喜び。

「ボンポコリン音頭」では、練習した成果もあって見事な踊りを披露してくれました。さらに、「河内音頭」では「小石丸」ご一行の音頭で、本番の踊りに向けて大いに盛り上げられました。

※「とっぴー」は富田林市イメージキャラクター



平成29年 秋祭り曳行コース

平成29年須賀地車曳行にあたり

平素は須賀三町会のみならずには、祭礼運営委員会の諸行事に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年も秋祭りのだんじり曳行が、来月に近づいてまいりました。昨年同様、宮入後の曳行は、町内曳行を中心とする曳行コースを予定しています。2日間の曳行コースを詳しく掲載させていただきますので、だんじりの太鼓の音が近づいてまいりましたら、ぜひご家族お誘い合せのうえ、お出ましく下さい。

祭礼運営委員長 北野登己郎
青年会長 池田 匠



保護者の皆様へ
当日は、お子様方の多数のご参加をお待ちしています。青年会をはじめ各種団体が「絶対安全」を第一に取り組みますが、保護者の方々にも引率にご協力をお願いします。尚、小学校3年生以下の児童は、事故防止のため極力保護者同伴でご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

試験曳き 10月8日(日)14:00~18:00	宮入 10月14日(土)6:30~22:00	後祭 10月15日(日)7:00~22:00
14:00 地車小屋【発】①→②→	6:30 地車小屋【発】①→②③④⑤③→	7:00 地車小屋【発】①→②
14:10 陸野歯科③→	7:20 陸野歯科【宮入出】③→②⑦⑧⑬⑮→	7:20 陸野歯科【発】③→④⑤④②⑬⑲⑳→
14:15 南山⑬⑱→	8:30 芝会館【着・休憩】⑫→	9:00 伏山公園【着・休憩】⑳
14:25 滝谷駅⑳→④	9:35 錦織神社【着】⑭	9:30 伏山公園【発】⑳
14:40 滝谷病院⑤→④③②→	14:00 錦織神社【発】⑭→⑳→⑮⑧⑦⑥	9:40 子ども体験タイム⑬③②⑱④③→
15:20 地車小屋【休憩】①	16:30 須賀台【休憩】⑥→⑦①	11:30 陸野歯科【着・昼食】③→④⑤②⑤
16:40 須賀台⑥→⑧②⑱④③→	18:00 地車小屋【夕食】①	13:00 大東食品駐車場【休憩】②⑤→④③②⑦⑧
17:45 地車小屋【着】①	19:00 地車小屋【発】②③④⑤④	14:00 須賀住宅【休憩】⑯→⑱④②⑤
	19:30 富士屋(休憩)⑳	15:00 大東食品駐車場【休憩】②⑤→④②⑱⑧③②⑱④③②①
	20:00 ライフ【パレード】㉔	17:00 地車庫【夕食】①⑱③②⑱④③②①
	21:00 ライフ【発】㉔→⑱③⑤④②⑱⑧③②→	19:00 須賀台【休憩】⑯→⑱⑧
	22:00 地車小屋【着】①	19:30 ミニストップ【パレード・休憩】㉓
		20:00 ミニストップ【発】㉓→②③⑱⑱②④⑤③⑩
		20:30 富士屋【着・休憩】⑳ (21:00 子ども解散)
		21:00 富士屋【発】⑳→④⑱⑳④③②①
		22:00 地車小屋【着】①

子ども用“はっぴ”貸し出しています

くわしくは、各町会にお問い合わせください

注意
だんじりのコース、時間等に関しては、当日の諸事情によって変更となる場合があります。詳しくは当日、祭礼関係者にお問い合わせください。

聖ヶ丘町会 (富田林市) 会長:小田原 正弘さん

聖ヶ丘町会は昭和40年代前半から須賀に隣接した区域が開発され、昭和46年に伏山町会から分離独立致しました。現在192世帯の会員で組織されています。

町会の活動として新年の伏山神社参拝や盆踊り・秋祭りをはじめ老人クラブ・青年会・子ども会等の活動は伏山町会と合同で行っています。また、春秋には町内美化月間として一斉清掃を実施し、敬老の日には「お祝いを送る行事」や夏や年末には夜警を行っています。

他には「子ども安全見守りサポート」や福祉委員会活動として「愛サンサン聖ヶ丘カフェ(奇数月)」を実施しています。

錦織地区町総代会(富田林市) 会長:中尾泰文さん

錦織地区町会には9町会 1660世帯を有しており、錦郡新田と呼ばれた須賀地区の皆さんとは数百年の交流の歴史があります。

地区町総代会では歴史文化と伝統を次の世代に引き継ぐ活動として、聖音寺の千日参り、盆踊り、秋祭りなどの行事を行っています。

また、自主防災訓練、歳末夜警を通じて地域の皆様と一体となった安全安心の取り組み活動を行っております。

鳴尾自治会(河内長野市) 会長:辻 成喜さん

鳴尾自治会は河内長野市木戸2・3丁目を区域とし、14組 215世帯の方々で構成しています。町内には消防委員会、防犯委員会、福祉委員会、老人会、地車会の組織があります。

主な行事は8月の地藏盆(ちびっこ祭り)、秋祭り地車曳行(平成25年新調)などです。また自治会館ではそろばん・空手・合気道・ヨガ・カラオケ・民謡等の教室がほぼ毎日開かれています。

自治会加入者が年々減少する中、何とか自治会を活性化し、安心して住まうことができる地域を目指して活動を行っています。

ステージイベント (体育館)

- 金剛中学校和太鼓部「金剛風」 ● ステップス・ダンススタジオ
- 寺池台小学校4年生児童 ● 日本空手道明武会
- 伏山青年団 ● 石田晶子パトスタジオ
- 伏山台小学校児童 ● 伏山台幼稚園園児
- 大阪芸術大学少林寺拳法部 ● 金剛中学校吹奏楽部

各校PTAや各種団体による模擬店やバザーユニークなスポーツ体験など、楽しいイベントの1日。地域との交流を楽しみましょう!

11月12日(土) 寺池台小学校
AM10:00~PM2:30

第16回 金剛すまねットフェスタ

入場無料
金剛の町で子ども達を応援するイベントです


雨天決行

子どもは地域の宝もの



近隣町会のご紹介

須賀三町会は須賀に隣接する町会と数年前から交流を行っています。防災・防犯・秋祭り等の課題や町会運営の悩みや知恵を出し合ってきました。錦織地区や伏山・聖ヶ丘地区とは同じ富田林市内の町会として、松ヶ丘や鳴尾地区とは市は異なっていますが住宅地がとなりどうしの隣人として、防犯防災の協力について話し合っています。この度、各町会長より寄稿いただきましたので紹介をいたします。



伏山町会 (富田林市) 会長：山本定夫さん

須賀地区とは数百年の交流の歴史がある伏山町会伏山町は、大阪狭山市と金剛団地に接しており町会は 130 世帯の会員で組織しています。

地域の行事としては、新年の伏山神社のお日待講に始まり、盆踊り、秋祭りのだんじり曳行、年末警戒等の行事を行っています。また、老人クラブ・子ども会の活動も含め隣接の聖ヶ丘町会と合同運営で行っています。

松ヶ丘連合町会 (河内長野市) 会長：玉崎和美さん

松ヶ丘連合町会は、須賀西町会の西側に位置し、河内長野市松が丘東町・中町・西町を町会の区域としています。連合町会は 10 自治会から構成されており、880 世帯が加入されています。

町会内には自主防災会、婦人防火クラブ、防犯センター、福祉委員会が組織されており、安全安心に暮らせるまちづくりに努めています。

主な行事として8月の盆踊り・地域交流花火大会、秋祭りの地車曳行を行い、12月に地域の氏神である春日神社のお祭りなどを行って地域の絆を強めています。

イベントのご案内

第 14 回ワークくみのき フェスタ

日時：平成 29 年 11 月 3 日 (祝)
10 時 30 分～14 時 30 分
会場：ワークくみのき (大阪狭山市東栄栗木 3)

多機能事業所
地域生活総合支援センター

ワークくみのき

ごこせ福祉まつり

日時：平成 29 年 10 月 28 日 (土)
10 時～14 時
会場：第 2 拓作業所 (富田林市佐備)

社会福祉法人
ごこせ福祉会

第 2 拓作業所

新校長のご紹介

錦郡小学校長 豊畑佳史 (伏山台小学校より転任)



本校は「未来を切り拓く力を身につけた豊かな人間性あふれる子どもの育成」を教育目標に、教職員一同、職務に邁進しています。

学習指導・生徒指導がうまく機能している現在の錦郡小学校には「学校が楽しい、先生や友だちと一緒にがんばりたい。」という意欲があふれ、子ども

たちは、明るく元気に前向きに、学校生活を送っています。278 名の全校児童の内、須賀からは約 80 名の児童が集団登校しています。班長は低学年児童に目を配りながら、安全第一に登校していますが、通学路は車両の通行も多く、やはり、大人の目があると安心です。「子どもは地域の宝」と、見守り活動にご協力くださる皆様に、心よりお礼申し上げます。

伏山台小学校長 浅井美佐 (彼方小学校教頭より転任)



伏山台小学校の子どもたちは 304 名。平成 29 年度は、伏山台小学校の 3 つの F【Fight (ファイト・元気にあいつ)・Fair (フェア・ルールやきまりを守って)・Friend (フレンド・思いやりの気持ちを大切に)】を合言葉として、教職員・子どもたちが力を合わせ、

明るく、前向きに頑張っています。

子どもたちは、見守りサポーターさんに見守られながら、毎日、安心して登下校をしています。本当にありがとうございます。子どもたちには、地域の方々に感謝の気持ちを忘れず、地域の一員としての自分の役割を考えてほしいと思っています。

コラム・須賀の歴史 「戦前～戦後の児童教育」

前号では、明治時代の「須賀の児童教育」を紹介しました。今回は、戦前から戦後 (第二次世界大戦) にかけて、錦郡小学校へ通った須賀在住の方々に通学や学校生活など、当時の様子お聞きしました。その内容を紹介します。

学校生活は、どうだったか？

- ・国語、算数、音楽、修身*1、体操を学んだ(戦前～終戦まで)。
- ・農作業もあり、男子は耕作などの力仕事をし、女子は収穫を行った(戦前～)。
- ・奉仕活動や軍事教育があった(戦前～終戦まで)。
- ・男子は野球(5～6年生)、女子は裁縫の授業も(戦前～)。
- ・ドッジボールやゴム跳び、おじゃみ*2 やけんばで休み時間を過ごした(明治～)。
- ・先生は厳しく、授業中の私語は「げんこつ」の一撃(戦前～)。

文房具や鞆は、どのようなものを使っていたか？

- ・鉛筆、キャップ、クレヨン、ます目ノート、わら半紙などを使用した。
- ・肩掛け鞆やランドセルを使った(明治～)。

習い事は、どのようなものが、あったか？

- ・神宮寺で「そろばん教室」があり、30 人程の生徒が習っていた。先生は須賀在住の方(明治～戦後)

家庭生活ではどうだった(戦前～戦後)

- ・兄弟や姉妹が多く、子守や竹籤引き*3、かまどの火用として、山に行って松葉や枝などを拾った。
- ・口応えすることなく、親の言うとおりに家事の手伝いをしていた。
- ・農家では牛を飼っており、中学生になると牛を散歩させていた。また、鶏の世話なども行っていた。
- ・おやつは、蒸し芋やサトウキビ、柿など。遊びではゴム跳び、こま回しなど。



イメージ写真

その他、参加者の皆さまから生活様子など、個々のお話しを紹介します。

冬も裸足で雪駄草履を履いて通学

(Tさん男性 昭和 10 年入学 16 年卒業)

- ・小学校生活は戦前だったので、それほど厳しい生活ではなかった。
- ・雪駄草履で通学し、冬でも裸足だった。
- ・雨が降ると番傘を使用。結構、重たかった。
- ・給食はなく、弁当を家から持参した。炭が練炭で弁当を温めた。ご飯は麦と白米が混ざっていた。錦織の生徒は家に帰って食べていた。

お弁当を温めるが、焦げたときも

(Kさん女性 昭和 11 年入学 17 年卒業)

- ・前ゴム付き運動靴を履いて通学。運動会は白の地下足袋で走った。国語はカタカナから始まり、その後にひらがなを習った。
- ・弁当は校長先生と一緒に食べた。弁当を炭火コンロで温めるが、時々焦げることがあった。錦織の人は家に帰って食べていた。
- ・わら草履の作り方の授業もあった。習字では、墨汁を付け過ぎると半紙が破れた。

長刀を使った訓練の授業も

(Nさん女性 昭和 15 年入学 21 年卒業)

- ・入学時は戦前だった。しばらくして太平洋戦争が勃発し、堺の方では空襲があり、空が真っ赤になっていた。
- ・体操では「長刀」を使った訓練があった。
- ・運動靴は配給制。
- ・体調の悪い人には、肝油を飲まされた。
- ・戦時中は食糧難のため、学校の近くの山に芋植えを行い、学業どころではなかったが、子どもなりに楽しく過ごせた。
- ・神宮寺でそろばん、習字の教室が行われていた。また、村の寄り合いや市町村議員選挙の投票場所だった。
- ・戦時中は食糧難で、町から来た人が米、野菜を調達するため、古着と交換した。

登下校途中に空襲があれば山へ逃げ込む。水泳の授業は石川で

(Nさん男性 昭和 17 年入学 23 年卒業)

- ・服装は学生服と運動靴で通学。
- ・お昼は、1～6年生まで一緒に教室に集まり、「教育勅語」を読んだあとお弁当を食べた。食べる時間が短く、低学年は全部食べられないことがあった。
- ・水泳は石川で授業を行った。また、川の中に石を置き、飛び石を作ったが半日もかかることがあった。

- ・先生の指導方法に生徒達全員が反発し、生徒達が授業を放棄したことがあった。学校を飛び出して歩いていると、農家の方から注意された。一緒に学校に戻って謝ってくれ、先生に許してもらった。
- ・終戦間近になると、空襲警報が頻繁にあった。登下校に空襲警報があると山(とらまつ山)に逃げ込み、解除されるまで潜んでいた。通学は防空頭巾をかぶり、一斉登下校ではなく個別だった。
- ・河内長野駅が空襲に遭い、死んだ人もいた。

米の不作時は野菜を売り、米に交換

(Iさん男性 昭和 17 年入学 23 年卒業)

- ・授業中に空襲警報があれば、すぐ家に帰宅した。
- ・体操の先生は特に厳しかった。
- ・兄弟が多く、足袋を共用していた。姉の足袋を履いて学校に行くと、冷やかされ笑われた。
- ・終戦直後、日照りが続いたため、米の収穫が大幅に遅れた。自給できないため、野菜を売って米を調達した。

授業は男女別に

(Yさん男性 昭和 20 年入学 26 年卒業)

- ・空襲警報が頻繁にあった。授業中に警報があれば、すぐに帰宅した。白い服などは、爆撃機(B29)から発見されやすいので、目立つ服は着ないよう、先生に言われた。
- ・学校は男女別の授業を受けた。(3年生まで)
- ・国語は「カタカナ」から始まる。算数は 1、2、3・・・などの数字の勉強をした。
- ・運動靴は 2ヶ月も履けば、破れることがあった。



※用語説明
※1「修身」=身を正しく修める。現在では「道徳」
※2「おじゃみ」=お手玉
※3「竹籤引き」=竹を細長く加工する道具。すだれや籠などの材料となる。